



発行 社会福祉法人 聖友ホーム
 聖友乳児院（乳児院）
 聖友学園（児童養護施設）

聖友ホーム応援団 聖友ホーム ささえ隊 会員募集中！

「ささえ隊」について詳しくはHPまたはチラシをご覧ください

interview

インタビュー

43年間を振り返って・・・

昭和から平成・令和へと43年間にわたり、
 子どもたちと聖友ホームの歴史を刻んできた岡誠子職員に話を聞きました。
 今あらためて思うことをお伝えします。



ショックを受けた
 親方のひと言

「あなた、子どもに何を教えてきたの!？」

この仕事に就いて初めて就職させた子どもの様子を、
 アフターケアとして見に行った時のこと。就職先の親
 方に一喝され、頭が真っ白になりました。「基本的な
 生活習慣が身につけていない」と言うのです。例えば、
 親方の奥様が洗濯してくださった服と汚れている服を、
 同じ引出しに突っ込んでいて、唾然とされたそうです。

その頃は高校に進学せず就職するケースも珍しくな
 く、彼はまだ15歳でしたが、施設では毎朝6時に起床
 すると布団をきちんと畳み、日課の掃除をして…とい
 った規則正しい生活を送り、性格も明るく素直でした
 から、そんなお叱りを受けるとは思いもよりませんでした。

それはとてもショックでしたが、大事なことに気づ
 きました。子どもたちは「やらないと怒られるからや
 っているだけ」で、「〇〇しなさい!と言われないと
 できないように育てているのではないか」と。

当時、必死で仕事に打ち込む中、子どもに指示すれ
 ば言うことを聞くので、無自覚のうちに「自分は子ど
 もより上」と傲慢な気持ちが私の中に蔓延していたか
 もしれません。私自身、他の職業や世の中のことをよ
 く知らないにもかかわらず、子どもに「卒園したらあ
 だだ」「仕事とはこうだ」などと偉そうなことも言っ
 ていたのです。

あの時の親方のひと言は、我が身を振り返るきっか

けになり、「子どもが自分で考えて行動できるように
 していかなければ」と良い教訓になりました。



肩の力を抜いた方が
 物事はうまくいく

私は一度、定年退職しています。仕事内容は変わら
 ないのに、今の方が楽しいですね。様々な重圧がある
 中で、「子どものために!」と肩肘張っていた頃は、
 結構しんどかったです。

思い起こせば、物事は肩の力を抜いた方がうまくい
 くように思います。「子どものために～してやろう」
 と大上段に構えていると、空回りしたり、うまくいか
 なかったり。ところが、子どもの成長を感じて「子ど
 もにはかなわないなあ」と思ったとたんに、いろい
 ろなことがスーッと前に進み出したものです。

今の若い職員たちは、大変な子どもが多い状況でよ
 く頑張っていると思いますが、「こうしなくてははいけ
 ない」と思い込み過ぎず、ときには肩の力を抜いて気
 楽に構えると、パアッと道が開けることもありますよ。



40代の頃の岡職員。
 学園旅行の下見で行
 った自転車旅行にて

慣れ養育 レポート



乳児院の子どもは2歳から4歳までに児童養護施設へ移ります。その準備として、移動先の児童養護施設に子どもがスムーズに馴染めるよう『慣れ養育』を行います。

同じ敷地内に、聖友乳児院と聖友学園(児童養護施設)がある法人のメリットを活かした『慣れ養育』について、担当職員がご報告します。

約半年間かける 聖友ホームの慣れ養育

乳児院から児童養護施設へ生活の場を移すにあたり、希望を持って新たな生活を始められるためには、子ども自身が生活の見通しをもち、自分を理解し待っていてくれる人たちがいるという実感や安心があることが必要だと考えます。

聖友乳児院では、子どもを「慣らす」のではなく、子ども自身が「慣れていく」というプロセスに聖友学園と取り組んでいます。他の施設に移る場合、通常2~4回の事前交流を行います。聖友学園での交流は約半年の時間をかけることができます。初めは乳児院の担当養育者と共に学園の人や環境に慣れ、そこでの生活体験(遊び・排泄・食事・入浴等)を繰り返し経験し、子どもが一人でも新たな人間関係の中で過ごすことができることを目指していきます。(聖友乳児院・家庭支援専門相談員/中山)

送り出す側のコメント

(聖友乳児院・藏見保育士)

K. Kちゃんは、乳児院では一番年上で、泣いたりしている児がいると助けてくれる優しいお姉さんです。が、学園に行くとき年下のため、年上のお姉さんに甘える姿も見られています。ある日お迎えに行った時、お姉さんの膝に座りながらリラックスした表情でテレビを見ていました。乳児院では、自分がお姉さんという意識もあるようですが、学園ではお姉さんに甘えを出すことができましたようです。

『慣れ養育』が始まった当初、学園では緊張している様子でしたが、回数を重ねていくにつれて表情も和らぎ、楽しく過ごせるようになりました。笑顔で「またお姉さんのお家に行く」との発言も聞かれています。



受け入れ側のコメント

(聖友学園・星野児童指導員)

まず最初は、乳児院職員同行のもと1時間程度、学園で過ごします。見る物すべての大きさにおっかなびっくり・緊張しながら遊んでいます。数回来ることによりお気に入りのおもちゃを見つけ、学園の職員や他の子どもにも慣れてきます。

さらに慣れてくると乳児院職員は送迎のみとなり、学園でお昼ご飯を一緒に食べることもあります。感染症等の状況で実施できない場合もありますが、この半年間で10回程度は交流できました。

施設を移る日、乳児院職員との別れに子どもは寂しそうではありましたが、十分な『慣れ養育』を経験したことにより、学園の生活に馴染む早さは従来に比べ桁違いなものがあります。職員としても事前に子どもに会って、好みや性格などある程度の情報がある状態での受け入れも良かった点の1つです。

学園での慣れ養育中、年上の子どもたちと楽しく交流

委員会紹介スペシャル

 衛生委員会 聖友学園編

聖友ホームでは、乳児院・学園ともに全職員がさまざまな委員会に所属し、活動をしています。これまで約3年間にわたり連載してきました委員会活動報告ですが、締めくくりに『衛生委員会』を特集。前号の聖友乳児院『衛生委員会』に続き、今回は聖友学園の『衛生委員会』をご紹介します。

※衛生委員会とは？

常時使用する労働者が50人以上の事業場には、「衛生委員会」の設置が義務付けられている（労働安全衛生法第18条）。労使が一体となって、労働者の危険や健康障害を防止するための対策を講じることが目的。



1 主な活動内容

- メンバーは、学園長、衛生管理者1名、職員4名、計6名
- 毎月第二金曜日に委員会を開催し、労働災害・通勤災害、感染症発生状況や巡視結果などを定期的に報告
- ストレスチェックなど職員のメンタルヘルスに対する取り組み、月間目標（5月病予防、インフルエンザ予防、ハラスメント予防等）に向けた取り組みなどを検討・実施

3 活動の成果

- *労働災害について職員皆が意識するようになり、職員から労災の申し出も増えた。
- *今年度は階段を踏み外して転倒する事例が2件あり、階段に滑り止めを設置したところ、滑りにくく安全に昇降できるようになり、不安が解消された。
- *職員の間でも、労働衛生についての話題や質問が出る機会が増えた。また、シェアリングについても、「話し合いの機会がたくさんあって良い」と職員から好評を得ている。

2 聖友学園・衛生委員会の特色

- *職員会議や施設内研修を利用し、労働災害や労働衛生についての知識を職員に普及する。
- *働き方や健康等について、職員が自分自身のこととして捉えられるよう、全体や各ホームの会議でディスカッションやシェアリングを行っている。



今後の課題や目標

「仕事柄、不規則勤務や支援職ならではの精神的ストレスがある現場ですが、離職者や休職者が減るよう、職場環境改善や業務の負担軽減など、働きやすい職場づくりをすすめていきたいと思います。

また、メンタルヘルスケアについても、“心の健康づくり計画”を立てて、充実させていきたいと考えています。（衛生管理者・清水）」

聖友子どもギャラリー

聖友学園の子どもたちが、ご支援して下さる方々への年賀状やお礼状用に描きました





聖友ホームの職員が、日々の仕事の中で感じたこと・考えたこと・発信したいことなどを思い思いの言葉で綴ります。

学びがたっぷりの余暇委員会

聖友乳児院 保育士 根本 華 (入職2年目)

「ネモチャン オサカナ ヤッテタネ」同じクラスの他の先生が“さかながはねて”の手遊びをしているとき、子どもが私に話しかけました。余暇委員会1年目の院全体遠足の時、私がバスの中で行った手遊びを覚えて言ってくれたようです。

聖友乳児院に入職して2年、『(子どもに生活の喜びや充実感を与える活動を行う)余暇委員会』でも2年が経ちました。はじめは、クラスのことでも委員会のこともわからず、先輩の先生方を頼りに必死に色々なことを吸収しようとしていました。今現在もわからないことだらけで頼りっぱなしではありますが、吸収したことを活かせるよう取り組み、余暇委員会のメインイベントである芋掘り遠足とお泊まり保育を終え、今年度の委員会のフィナーレが近づいてきました。

いかにして子どもたちにとっていい経験につながるか、また子どもたちだけでなく職員や行事に携わる全てのことに視点を向け、細かな配慮も見逃さないよう委員会のみんなで話し合い、乳児院職員一同で連携し合う姿をみて、大変な仕事ではあるものの後に子どもたちの思い出につながると思うと大きなやりがいを感じます。

先日の芋掘り遠足で、なかなか普段できない体験から緊張した様子で芋を引っ張る姿、大きな公園でダイナミックな遊具で遊んだり、広い芝生で思いっきり走ったり、その時々に出てくる子どもたちの様々な表情や新たな一面を見て、頑張った良かったなど思える素敵な瞬間がありました。何かを考え、実行するという役目を果たしながら、その実いつだって私は、その小さな身体から溢れるばかりの元気や感動をもらっています。

News

卒園おめでとう！

3月21日(土)、聖友学園では卒園式を執り行いました。社会に羽ばたく5名の子どもたちを、これからも見守ってまいります！



思い出が詰まった聖友学園ホールにて



別れを惜しみつつ祝辞を贈る在園の子どもたち